

【参考1】ICT活用工事及び簡易型ICT活用工事

	施工プロセス					工事成績
ICT※5 活用工事 (土工1000m3未満)	【ケース1】ICT施工プロセスの全て(①～⑤)を活用する場合					創意工夫【施工】で加点(2項目) ☑運搬車両・施工機械等の工夫 ☑施工管理ソフト、土量管理システム等の活用に関する工夫
	①※1 3次元 起工測量 【見積り】	② 3次元 設計データ 【見積り】	③※2 ICT建機 による施工 【ICT積算】	④※3 3次元 出来形管理 ※4	⑤ 3次元 データ納品 ※4	
簡易型 ICT※5 活用工事 (土工1000m3未満)	【ケース2】②③④⑤を活用する場合					※5 ICT活用工事(小規模土工)の場合、創意工夫【その他】【生産性向上】で評価する
	①※1 従来測量 (従来率)	② 3次元 設計データ 【見積り】	③※2 ICT建機 による施工 【ICT積算】	④※3 3次元 出来形管理 ※4	⑤ 3次元 データ納品 ※4	
	【ケース3】①②④⑤を活用する場合					創意工夫【施工】で加点(1項目) ☑施工管理ソフト、土量管理システム等の活用に関する工夫 ※5 ICT活用工事(小規模土工)の場合、創意工夫【その他】【生産性向上】で評価する
	①※1 3次元 起工測量 【見積り】	② 3次元 設計データ 【見積り】	③※2 従来施工 (従来積算)	④※3 3次元 出来形管理 ※4	⑤ 3次元 データ納品 ※4	
【ケース4】②④⑤を活用する場合						
①※1 従来測量 (従来率)	② 3次元 設計データ 【見積り】	③※2 従来施工 (従来積算)	④※3 3次元 出来形管理 ※4	⑤ 3次元 データ納品 ※4		

※1受注者は、上記の起工測量については、従来手法を原則とするが、3次元測量データを取得するため、3次元起工測量を実施してもよい。

※2受注者は、施工現場の環境条件により、ICT建設機械による施工が困難となる場合は、従来型建設機械による施工を実施してもよい。

※3受注者は、上記の出来形管理については、標準的に断面管理を実施するものとするが、施工現場の環境条件により面的な計測による出来形管理を選択してもよい。

※43次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理を実施した場合、補正係数による費用計上の対象とはならないが、見積りより適正額を積み上げるものとする。

【参考2】 ICT活用工事及び簡易型 ICT活用工事を除く生産性向上に資する ICT活用工事

ICT活用工事（小規模土工）で活用した技術を評価することができる。

次の技術等を活用した場合、生産性向上に資する工事とする。

例) 自動追尾トータルステーション、パワーアシストスーツ、情報共有システム（ASP）、遠隔臨場、AI技術、VR技術、3次元起工測量、
2次元MC又はMG 等

⇒創意工夫【その他】で加点

【生産性向上】 ICT活用工事及び簡易型 ICT活用工事を除く生産性向上に資する取組みが図られている。

【参考3】 創意工夫で加点するための履行確認書類（例）

技術名等	創意工夫等 別添様式1,2の作成	備考
ICT活用工事、簡易型 ICT活用工事	不要	ICT活用工事計画書、出来形管理書類等でICTを活用したことが確認できる。
ICT活用工事（小規模土工）	不要	ICT活用工事計画書等でICTを活用したことが確認できる。
自動追尾トータルステーション	必要	
パワーアシストスーツ	必要	
情報共有システム（ASP）	不要	工事打合せ簿等にてASPを活用していることが確認できる。
遠隔臨場	不要	段階確認記録表等にて遠隔臨場を実施していることが確認できる。
AI技術	必要	
VR技術	必要	
3次元起工測量	必要	
2次元MC又はMG	必要	